

【調査報告書の見方9】

調査報告書は、企業の与信管理を行う上で参考となる資料です。貸借対照表を基として、財務分析の数値を知る上で必要なデータが掲載されています。

財務諸表分析表					
(単位：千円)					
比 率	算 式	2009年11月 算 出 額	比 率	年 月	算 出 額
負債比率	総負債 自己資本	786,250 229,750	342.22%		
流動比率	流動資産 流動負債	626,000 286,250	218.69%		
当座比率	当座資産 流動負債	269,000 286,250	93.97%		
固定比率	固定資産 自己資本	339,000 229,750	169.75%		
受取債権 回 転 率	年売上高 受取債権	2,241,423 49,000	45.74回 7.98日		
支払債務 回 転 率	売上原価 支払債務	1,385,200 270,250	5.13回 71.21日		
棚卸資産 回 転 率	年売上高 棚卸資産	2,241,423 350,000	6.40回 57.00日		
固定資産 回 転 率	年売上高 固定資産	2,241,423 390,000	5.75回 63.51日		
総資本 回 転 率	年売上高 総資本	2,241,423 1,016,000	2.21回 166.46日		
自己資本 比 率	自己資本 総資本	229,750 1,016,000	22.61%		

※ 流動比率は業界水準を上回っているものの、当座比率は93%台とやや低迷、在庫過多の現況、及び手元資金にそれほどの余裕はなく、即時支払能力には不安を残している。自己資本比率は22%内外を確保、資本蓄積はそれほど進んでおらず充分とは言えない。財務面は軟弱である。

株式会社フナニサーチ

(10)

・ 直近の貸借対照表を基にした財務分析の主要項目を掲載しています。財務諸表が入手できた場合決算時点の期日となる場合が多くなります。

・ 財務諸表を入手できず、主要項目の聞き取りなどによって貸借対照表を作成した場合、表題が『(推定)財務諸表分析表』となります。

・ 負債比率 資本の何%、あるいは何倍の負債を有しているか知る数値で、低いほど良いが、家具業界の場合 400%以下が望ましい。

・ 流動比率 流動負債(短期の支払)に対して、どの程度の支払い能力があるかを知る数値で、高いほど良いが、家具業界の場合 120%以上が望ましい。

・ 当座比率 流動負債(短期の支払)に対して、どの程度の当座資産(即時)の支払い能力があるかを知る数値で、高いほど良いが、家具業界の場合 80%以上が望ましい。

・ 自己資本比率 総資本に対する自己資本(資本金や剰余金の合計)の割合を示す数値で高いほど良いが、製造業で15%以上、卸売・小売業で20%以上が理想。

・ 受取債権回転率と支払債務回転率 年間売上に対して受取債権が何回転したか、また支払債務が何回転したかを見る数値。支払債務回転率が受取債権回転率を上回る場合、一般的に支払が先行している目安となる。

・ 棚卸資産回転率 在庫の回転率をみる数値で、高いほうが良い。家具業界の場合 6 回転以上が理想であり、数値が低いと在庫過多になっていることとなる。

・ 総資本回転率 年間の活動で総資本が何回転したかを見る数値。高いほど良く、低いと企業活動の能率が低いこととなる。家具業界の場合最低 1 回転が望ましい。